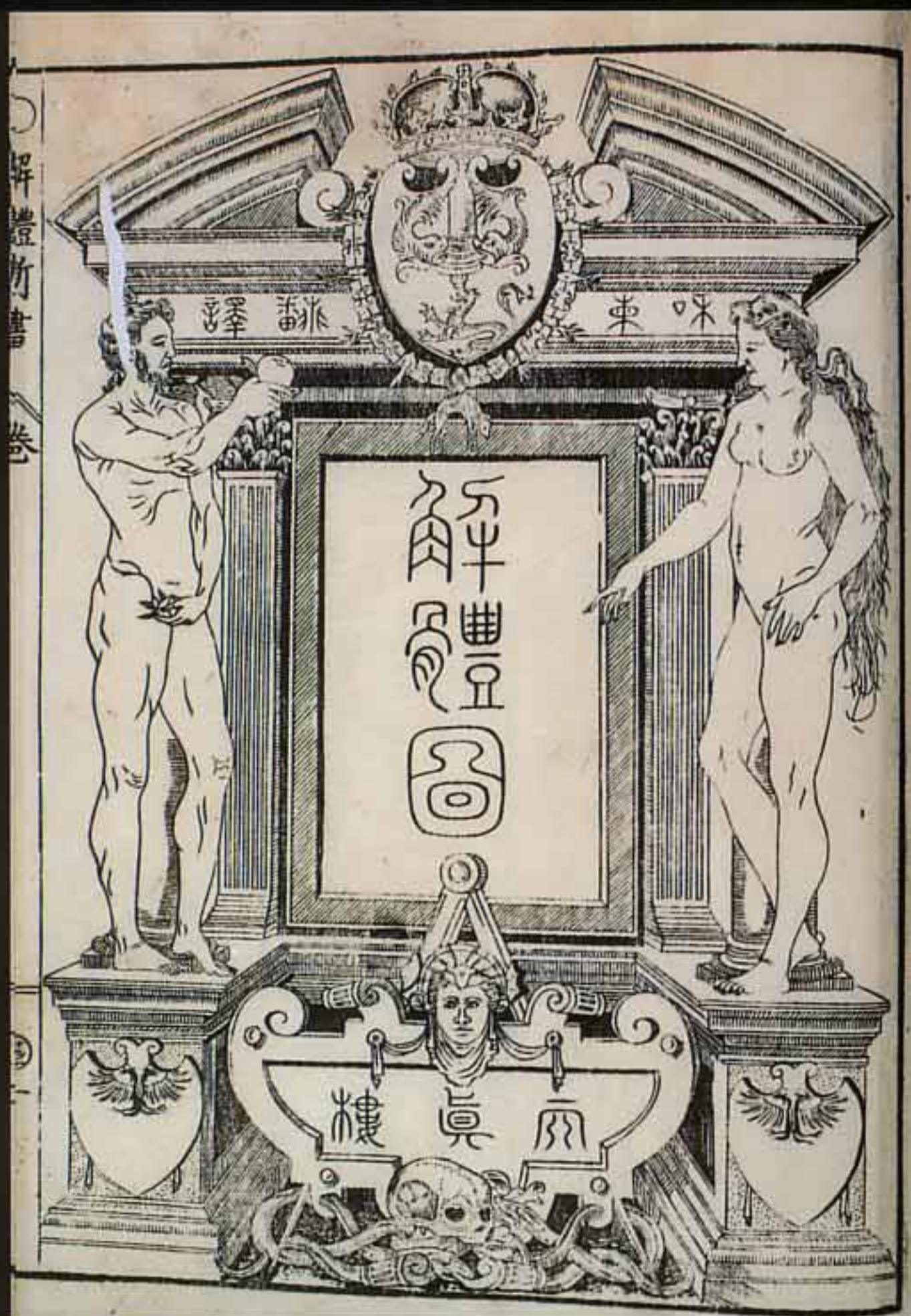


第6回所蔵資料紹介展

黎明期の医学書

古川家文書から



1993年8月3日(火)



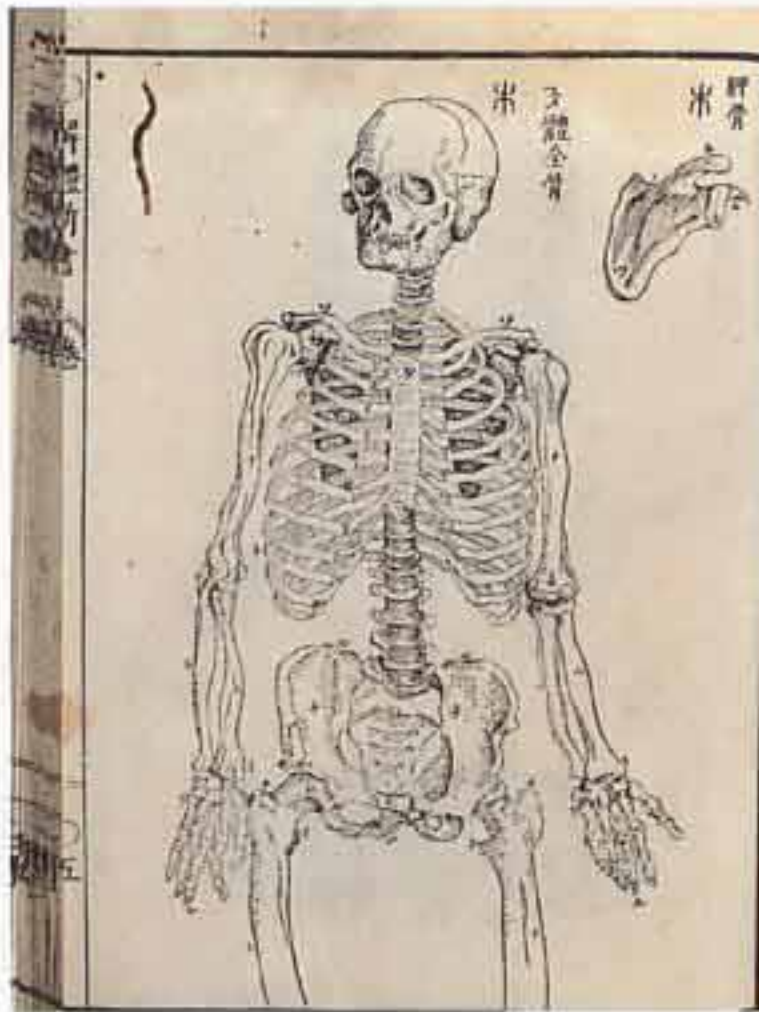
1993年10月17日(日)

西洋医学と『解体新書』

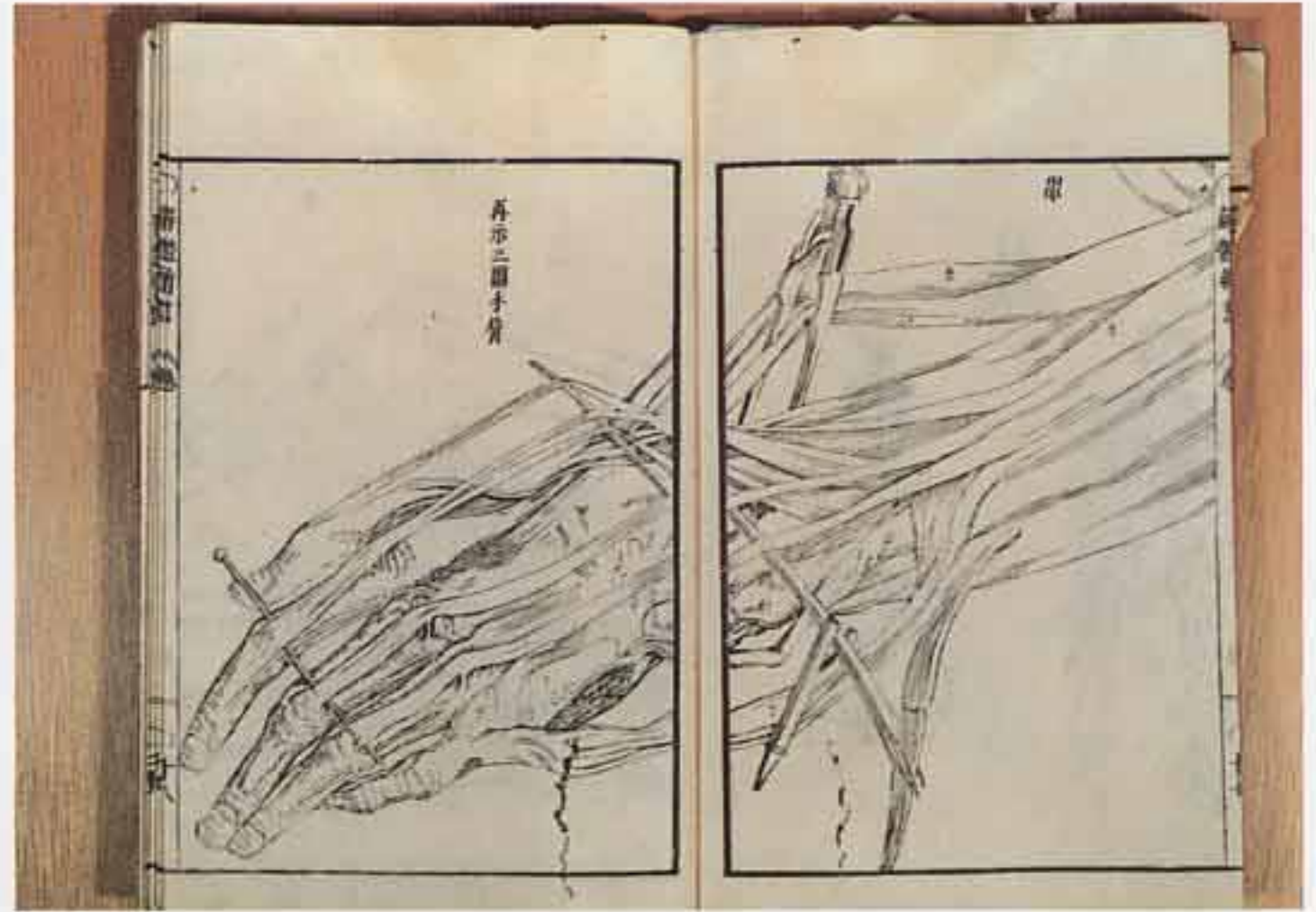


無恙明哉天生人如此書之所說學者明
杉體內景者亦天之德也
和蘭國來一千七百三十一年
若狹侍醫 杉田翼 謹譯

凡例
斯書譯和蘭人與股亞單開兒武思所著
打休維亞那都木者也斯方二百年來為
和蘭人就受厥醫術者多矣然惟一二年
其療法以為利口文實焉豈至讀其書修
其業乎哉蓋和蘭之國積乎技術知巧之
所及無不致者矣而速有德乎四海者醫
為最焉唯以其言語僻離文字曲釘作用
異常雖有善書良法天下靡得而稱焉我
家世傳而業厥焉盛也復獲其邦書矣余



『解体新書』のリアルな口絵は、
地方の医学者たちを驚かせたこ
とであろう。





薬看板 古川家蔵



薬だんす(百目だんす) 古川家蔵

近代医学の黎明と古川家

近代以前の日本の医学は、中国から多くのものを学びました。漢代の『傷寒論』、随代の『病源候論』、唐代の『千金方』などは、近代西洋医学の導入されるまでわが国の医学の基本図書でした。一方、天元五年（九八二）に、丹波康頼が『病源候論』を下敷きにして編集した『医心方』も日本最初の医学書として尊重されました。宝暦四年（一七五四）、実証主義を重んじた漢方医・山脇東洋は京都で日本最初の人体解剖を行い、古来の人体を五臓六腑とする医学の誤りを指摘しました。

明和八年（一七七二）、西洋医学の正確さと山脇らの実証主義に刺激された杉田玄白・前野良沢らは、江戸でオランダ解剖図を手に人体解剖に立ち会い、その正確さに驚嘆し、その後三年間の苦労の末、オランダ医学書『解体新書』の翻訳を完成させました。

阿波では、藩・民間ともに早くから医学に関心を示し、漢方医学の実証派や、オランダ医学を修めた優秀な医師を招聘したり、また国内からも優秀な医者を出しました。産科の賀川子玄、本草学の小原春造、蘭学的美馬順三・高良斎・関寛斎などがあります。

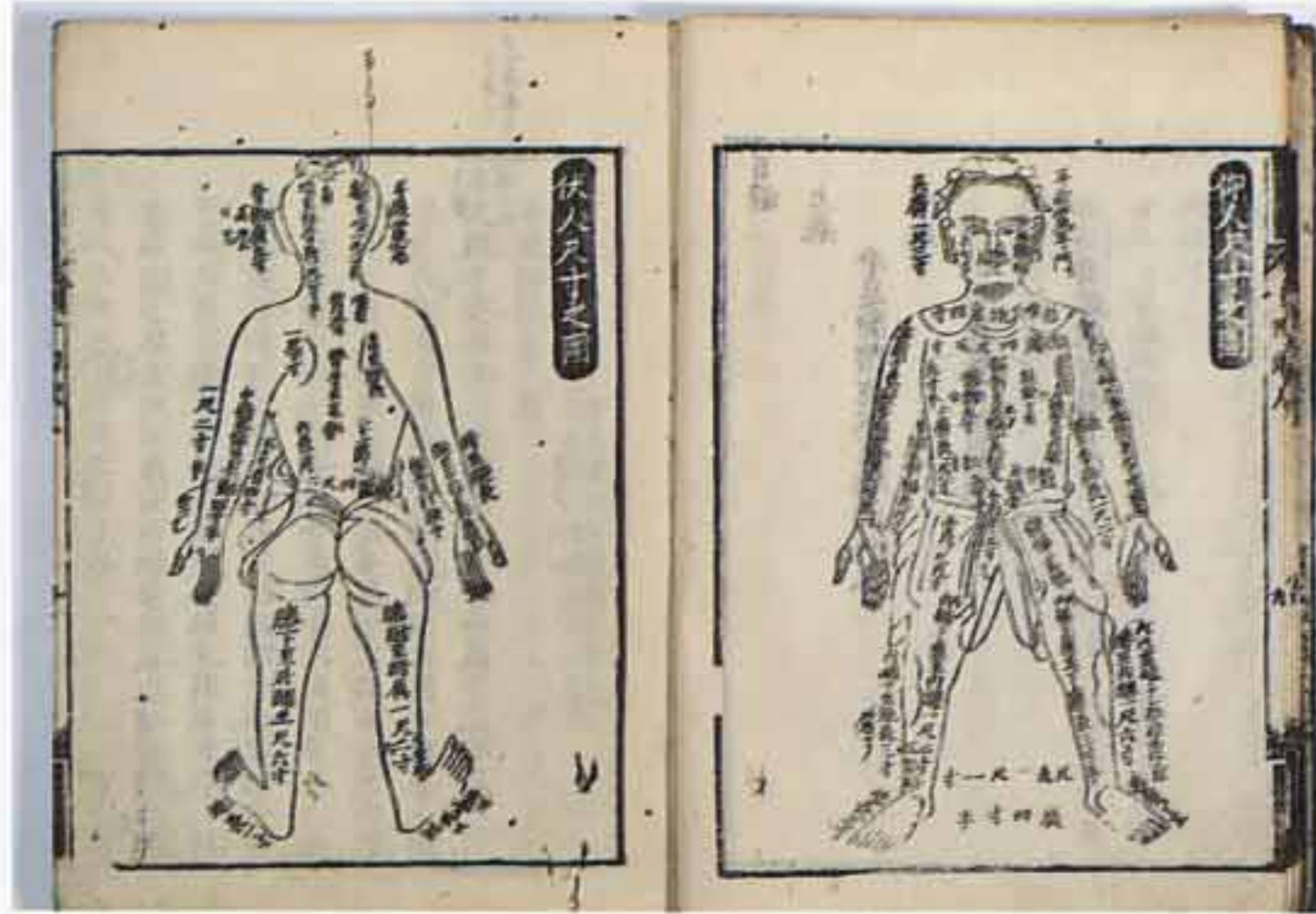
今回の、展示資料を寄託された古川家は、藩政期以来の医者で、初代の沖本源太兵衛（後に古川に改姓）を初め二・三代は、阿波の次席家老・賀島家に馬術でもって仕えました。その後、四代目の安五郎にいたり馬術・馬医と職域を広げました。五代目の岐山のとくに侍医に転向し、賀島家の侍医を勤めるかたわら富岡で開業しました。その後、明治以後も代々医者として現在に至っております。

古川家の医学書には、漢方医学・オランダ医学・本草学（薬学）などの諸書籍が混合しており、わが国における西洋医学導入期の何からでも吸収しようとする医学界の状況をよく示しています。

貴重な資料を寄託されました古川家に対し、展示にあたり改めて厚く感謝申し上げます。

漢方—^{けいらく}經絡と整骨—

經絡とは漢方でいう循環反応系統のこと。



『十四經』より



『整骨新書』より

漢法—本草学—

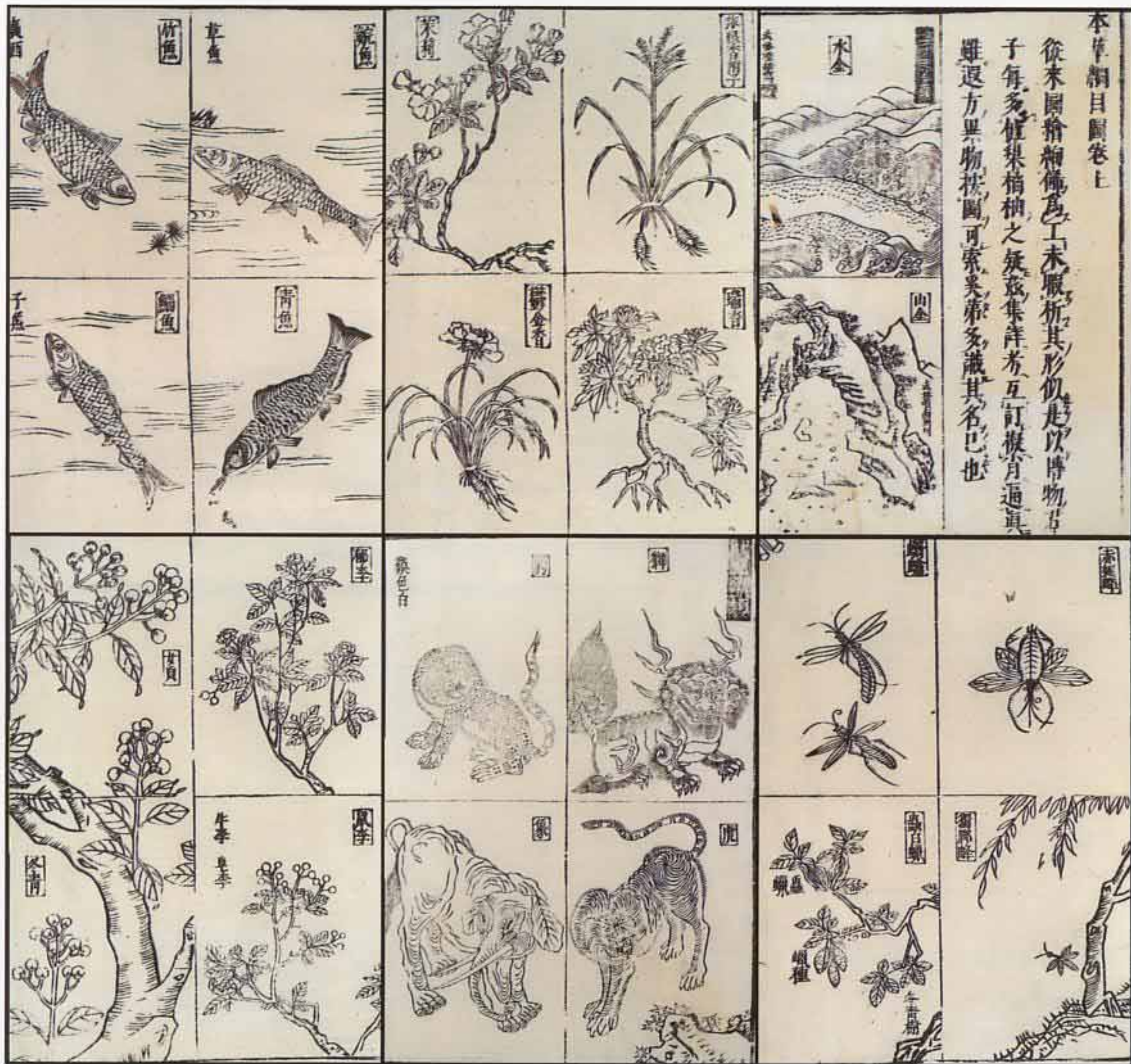
医薬にする目的で、動物、植物、鉱物などを研究する学問。



『本草綱目』より

本草綱目圖卷上

從來圖繪相傳為工未暇析其形似是以博物君子每多植棗楸之疑茲集詳考互訂擬月通真雖退方異物按圖可索吳帝多識其名已也



阿波の医学書

徳島の医学は、江戸時代から先進地域の一つであった。古川家文書の中にも徳島の医師たちが著述した医学書が含まれている。



『子女子産論』

四卷二冊、明和二年（一七六五）刊。
阿波藩医賀川玄悦著。

賀川玄悦（一七〇〇〜一七七七）は、滋賀県彦根の生まれで、京都で苦学をして医学を修めた。多年の臨床経験から、漢方医学では解明されていなかった母胎内の胎児の位置を発見した。また、難産に当たって、胎児の生命を犠牲にして母体を救う回生法などを創案した。その集大成がこの『子女子産論』である。その後、その大要は、シーボルトによって世界の医学会に報告されるに至った。

『穴名総目』

一冊、文化五年（一八〇九）刊。
阿波藩医小原春造著。

小原春造（一七六二〜一八二二）は、京都の生まれで成長後、父の里である阿波に帰り一七九四年阿波藩医に取り立てられている。居宅を医師学問所として開放し、阿波医学の発展に尽くした。

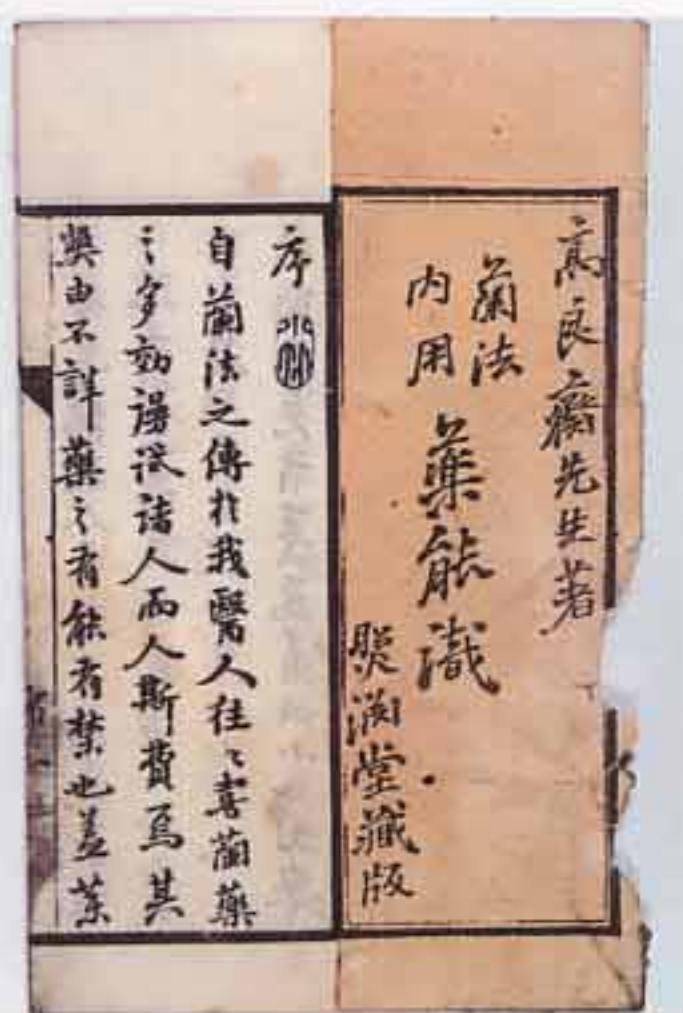
『穴名総目』は、その医師学問所の教科書として、医学生に用いられていた。一八一一年には、医師学問所の蔵版となり、藩公認の、医学教科書となっている。小原は、この他にも藩の物産調査役として『阿淡産誌』などを作成している。



『薬能識』

一冊、天保七年序。
徳島市出身の蘭医高良斎著。

高良斎（一七九九〜一八四六）は、徳島市常三島の生まれで、眼科医の高錦国の養子となった。長崎に二度留学し、二度目の留学ではシーボルトに入門して、鳴滝塾でオランダ語と西洋医学を学んだ。シーボルト事件後帰郷して、西洋医学による診療と、オランダ語の講義をおこなっている。その後大坂に渡り大坂蘭学の中心人物のひとりとなった。『薬能識』は、オランダ医学の内服薬の簡単な辞書で、効き目や調合や分量等が書かれている。



『解体新書』より



展示資料目録

書名	年代	大きさ(cm)	備考
1 新刻傷寒論	正徳2年	18×12	フルカ 00416
2 傷寒論国字弁	寛政6年	23×16	フルカ 00548～
3 和名入本草綱目	寛文12年	22×15	フルカ 00328～
4 大和本草	宝永5年	22×16	フルカ 00400～
5 十四経	慶安2年	27×19	フルカ 00284
6 古脈法図解	寛政8年	27×18	フルカ 00556
7 整骨新書	文化7年	28×18	フルカ 00610～
8 解体新書	安永3年	27×18	フルカ 00518～
9 泰西疫論	文政7年	26×18	フルカ 00619～
10 引痘新法全書	弘化3年	22×16	フルカ 00631～
11 馬経大全	天明6年	26×18	フルカ 00721～
12 哥の書	慶長11年	26×20	フルカ 00703
13 子玄子産論	明和2年	27×18	フルカ 00469
14 穴名総目	文化5年	24×16	フルカ 00608
15 薬能識	天保7年	17×6	フルカ 00630

第6回所蔵資料紹介展 黎明期の医学書 — 古川家文書から —

発行 平成5年8月3日

編集・発行 徳島県立文書館 〒770 徳島市八万町向寺山 TEL 0886-68-3700

印刷 原田印刷出版(株) 〒770 徳島市西大工町4-5 TEL 0886-22-2356